

## ● 鳩山会館



文京区の音羽の丘に鳩山家の美しい洋館が姿を現したのは、関東大震災の翌年大正13年である。鳩山家は、衆議院議員の和夫（1856～1911）、総理大臣となった一郎（1883～1959）、外務大臣をつとめた威一郎（1918～1993）、さらに衆議院議員の由紀夫（1947生れ）、邦夫（1948生れ）、と四代にわたり指導的な政治家を生み育てた。

この洋館を建てたのは一郎で、ここを舞台に、戦後政治の画期となった自由党（現・自由民主党）の創設が計られ、また首相として決断した日ソ国交回復の下準備も行なわれている。

設計を手掛けたのは一郎の友人の岡田信一郎（1883～1932）で、大正・昭和初期を代表する建築家として知られる。

一郎の没後、傷みがひどくなったため大修復を加え、平成8年（1996年）6月1日、往年の輝きを回復した。修復に当たり、一郎、その夫人で教育者の薫、威一郎を記念する部屋を設け、公開されることになった。バラの庭を前に建つイギリス風の外観、ハトをモチーフとするステンドグラス、アダムスタイルの応接室、朝倉文夫作の和夫、春子夫妻像、などなど見るべきものは多い。

鳩山一郎が首相当時、第2応接室が重要な政治の舞台になった。1



## ● カトリック東京カテドラル関口教会 聖マリア大聖堂



カトリック東京カテドラル関口教会は、東京都文京区関口にあるキリスト教の教会。カトリック東京大司教区の司教座聖堂であり、教会堂名が「無原罪の聖母」であることから、東京カテドラル聖マリア大聖堂として知られている。

外装は腐食に強いステンレス・スチール板で仕上げられており、内部床面には化粧大理石が貼られている。

構内ではサン・ピエトロ大聖堂のピエタ（ミケランジェロ）の精巧なレプリカやドイツ・ケルンのイエズス会から寄贈された聖フランシスコ・ザビエルの胸像などの収蔵品を観ることができる。

地下に納骨堂および小聖堂（小礼拝堂）を持ち、聖堂脇には鉄筋コンクリート製の鐘塔が鋭いフォルムを見せて起立している。

教会敷地奥には、聖母マリアが聖ベルナデッタに「無原罪の御宿り」を告げたとされるフランスのルルドの泉の洞窟の岩場が再現されており、この岩場の中には、大きな聖マリア像がある。

1967年（昭和42年）10月23日には吉田茂元内閣総理大臣の葬儀が行われた。また東京カテドラル聖マリア大聖堂の設計者、丹下健三の葬儀もここで行なわれた。



聖堂内



パイプオルガン



ピエタ



ルルド

《カテドラル》すなわち司教座のある教会を“カテドラル”、司教座聖堂という。関口教会は 東

京教区の司教座聖堂などで“東京カテドラル”と呼ぶ。(日本は16の教区に分かれていて、それぞれの「教区」には教区長である司教または大司教がいる。)

## ● 関口芭蕉庵



松尾芭蕉(1644年-1694年11月28日)が二度目に江戸に入った後に請け負った神田上水の改修工事の際に、1677年から1680年までの4年間、当地付近にあった「竜隠庵」と呼ばれた水番屋に住んだといわれているのが関口芭蕉庵の始まりである。1750年(寛延3年)に芭蕉の供養のために、芭蕉の真筆の短冊を埋めて作られた「さみだれ塚」が建立された。また「竜隠庵」はいつしか人々から「関口芭蕉庵」と呼ばれるようになった。

芭蕉二百八十回忌の際に園内に芭蕉の句碑が建立された。芭蕉庵にある建物は第二次世界大戦による戦災などで幾度となく焼失し、現在のものは戦後に復元されたものである。神田川に面した関口芭蕉庵正門(普段はここからは入れない。)



胸突坂に面した関口芭蕉庵の入り口。  
坂の下は「駒留橋」)



胸突坂(左に水神社、右に芭蕉庵。)

「江戸名所図絵」天保年間(1830~1843)に描かれた芭蕉庵辺りの景色。芭蕉庵、五月雨塚、駒留橋、はせを堂、竜隠庵などの文字がある。人物が20数人描かれ、馬を引く、荷を頭にする親子、天秤棒に荷を架ける、田で働く、旅人、庵を訪ねる人、桜か梅でも咲いているように

も見える。……。左端の水田地帯は「早稲田」で、今は 大学のある辺りも水田だったので、遠く富士山も望めたという。



芭蕉句碑（真筆）。

池を背に建つ「芭蕉翁之墓」(さみだれ塚)「五月雨にかくれもせぬや瀬田の橋」古池や蛙と  
び込む水の音」の芭蕉の句の短冊を埋めて墓とする。(1750年)

## ● 永青文庫

永青文庫は、新江戸川公園の北に隣接する美術館で、細川公爵家が所蔵したコレクションを所蔵・展示する。本館は、昭和5年に建造された細川公爵邸の旧事務所である。



室町幕府の管領一門、熊本54万石の細川家の下屋敷跡に建っており、旧熊本藩主細川家伝来の美術品、南北朝からの歴史資料や、絵画や陶磁器などの蒐集品などを収蔵し、展示、研究を行っている。運営主体は公益財団法人永青文庫。理事長は18代当主の細川護熙(元内閣総理大臣)。見学は有料で、大人1000円(シニア800円)

永青文庫では国宝8点、重要文化財32点をふくむ、およそ6,000点の美術工芸品と48,000点の歴史文書を所蔵している。コレクションが多岐にわたるため、常設展示の他に、国宝や重文等の貴重品は年4回、特別展を開催してテーマごとに作品を展示している。主要な収蔵品は下記の通り。

・細川家肖像：細川澄元像(狩野派の基礎を築いた狩野元信作(重文))、初代藤孝(幽斎)像、細





池をはさんで背後の台地を山に見立てた立体的眺望が特徴で、園路を一周したあとは、最初に見た風景を振り返るように設計されており、散策の余韻を味わえる。

山道の途中には永青文庫へと抜ける接続道が開通し、門扉が設けられていて、新江戸川公園と永青文庫の間の門扉は次の時間に開門されている。この時間帯は二つの施設の回遊が可能となる。開扉時間：10時から16時まで（但し、毎週月曜日、永青文庫の「展示替え期間」、年末年始は通行不可。）

## ● 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館



## 演劇博物館の歴史

演劇博物館は、1928（昭和3）年10月、坪内逍遙博士が古稀の齢（70歳）に達したのと、その半生を傾倒した「シェークスピア全集」全40巻の翻訳が完成したのを記念して、各界有志の協賛により設立されました。以来、演劇博物館には日本国内はもとより、世界各地の演劇・映像の貴重な資料を揃えています。錦絵48,000枚、舞台写真400,000枚、図書270,000冊、チラシ・プログラムなどの演劇上演資料80,000点、衣装・人形・書簡・原稿などの博物資料159,000点、その他貴重書、視聴覚資料など、およそ百万点にもおよぶ膨大なコレクションは、90年以上培われた“演劇の歴史”そのものといえるでしょう。1987年（昭和62年）には新宿区有形文化財にも指定されました。演劇人・映画人ばかりでなく、文学・歴史・服飾・建築をはじめ、様々な分野の方々の研究に貢献しています。

明治の初めに河竹黙阿弥（本名吉村芳三郎）は「白浪五人男」「霜夜鐘十字辻うら」などの作品を出した歌舞伎作者であったが、時の政府は従来の歌舞伎作者を無学文盲とあざけり、その作を蔑視しました。これに腹を据えかねた坪内逍遙は「読売新聞」に4回に亘って黙阿弥擁護の意見を述べました。これに感謝した黙阿弥は坪内逍遙と懇意になりました。明治34年10月に、深川座で黙阿弥の「弁天小僧」が無断上演され、黙阿弥の長女糸は著作権侵害で告訴します。逍遙は裁判所の依頼により鑑定人として精細な鑑定書を提出して糸を全面勝訴に導きました。これにより糸女が逍遙への信頼を確固なものにしました。独身の糸女は養嗣子を迎えようと思立ち、その人選を信頼する坪内逍遙に依頼しました。逍遙は飯田中学出身の市村繁俊を推薦しました。

明治44年11月に養子縁組が行われ、市村繁俊は糸の住む本所の家に入りました。以後、大正5年に「黙阿弥伝」、大正12年に「黙阿弥脚本集」、大正13年に「黙阿弥全集」の刊行を果たしました。

昭和3年に坪内逍遙の生涯をかけたシェイクスピアの翻訳40巻が完成し、この機会に逍遙の望んだ演劇博物館の建設が計画されました。河竹繁俊は設立事務を主宰し、苦心の末早稲田大学内に演劇博物館が完成し、開館式を挙げました。河竹繁俊の残した歌舞伎や演劇7関係の著書は多数ありますが、柳田泉と共著の「坪内逍遙」は逍遙の生涯と業績を綿密に記述した名著となっています。

「稲穂」第7号の特別寄稿に林京平さん（中41回）が「逍遙と黙阿弥と河竹繁俊」を記述しています。その中で、林京平さんが関係している財団法人逍遙協会は、逍遙が財を投じて昭和5年に設立されました。2代目の理事長が河竹繁俊（中6回）、5代目が印南高一（中22回）、7代目が林京平（中21回）です。坪内逍遙と河竹繁俊のつながりは飯田中学とのつながりでもあったといえます。